

第54回 世界遺産検定 マイスター試験
講評 および 学習方法

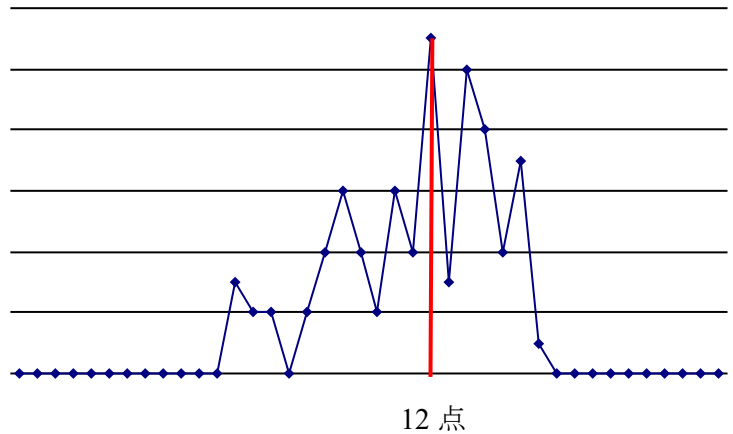
1. 実施概要 2. 認定点と分布 3. 問題 4. 総評 5. 各問の短評と学習法

1. 実施概要

検 定 日：2023 年 12 月 9 日（日）
検定会場：東京・名古屋・大阪
検定時間：120 分
解答形式：論述形式（記述）
申込人数：83 名
受検人数：79 名
認定者数：38 名（認定率 48.1%）

2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）
最高点：15 点
最低点：6.5 点



3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. 有機的に進化する景観
2. トランスバウンダリー・サイト
3. 登録基準 (v)

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
危機遺産リスト 従来とは異なる新たな破壊の脅威
教育事業計画 保護・保全の一義的な義務や責任

3 「近年の紛争（リーセント・コンフリクツ）」に関連する遺産の推薦が増えつつある中で、複数の国や民族の間で評価が確定しない遺産などの登録を目指す方法の1つとして、不動産を登録して保護していく世界遺産活動の中に、無形の概念を組み込む「記憶の場」という考え方が示された。2023 年の世界遺産委員会では新たに3つの遺産が「記憶の場」として登録されたが、こうした「記憶の場」を世界遺産として登録することのメリットと課題を、具体的な遺産名の事例を挙げながら、1,200 字以内で論じなさい。

4. 総 評

得点分布のグラフからもわかるように、今回は全体的にレベルが高く、「記憶の場」や「近年の紛争（リーセント・コンフリクツ）」のような最新の世界遺産の概念についてもよく準備してきていることが伺えた。また今回は若い世代や学生と思われる解答に優れたものが多く、受検者のレベルの底上げがなされているように感じた。一方で、2でキーワードを羅列するだけだったり、「従来とは異なる新たな破壊の脅威」でオーバーツーリズムやロシアによるウクライナ侵攻を挙げる受検者が少なからずおり、世界遺産条約が誕生した当時の時代背景を踏まえた解答が欠けていることが残念であった。

5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「有機的に進化する景観」では、そもそも文化的景観のカテゴリーの 1 つであるという点が抜けている受検者が一定数おり、世界遺産を知らない人に説明するようつもりで基本的な点を押さえるのがよい。文字数が少ない中で語句の説明の要素の組み合わせに大きく差が出ていた。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。毎回のことではあるが、指定語句を羅列しただけの解答が少なくない。ここは世界遺産条約の説明であるため、ウクライナの問題やパレスチナの問題といった時事問題を加えてもよいが、その分だけ本質的な説明が欠けてしまっているように感じる。**1**や**2**は基本的に忠実な説明を心掛けた方が、解答としては必要十分なものとなり高い点数が出る。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えておき**、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：総評にも書いたように、「記憶の場」や「近年の紛争（リーセント・コンフリクツ）」のような最新の世界遺産の概念についてもよく準備してきている解答が多かったように感じた。しかしここでも、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナのガザ地区の問題を取り上げている受検者が少なからずおり、現時点での「記憶の場」や「近年の紛争（リーセント・コンフリクツ）」の具体例としては相応しいとは言えない。特に「記憶の場」が主観的な側面を持つ危険性や、確定しない歴史評価の固定化に繋がる可能性などを課題として挙げている解答には高い点がついた。メリットについては、人々の記憶の継承や、対話の促進、教育利用などが多く、大きく点数が分かれることはなかった。自分の意見を述べるのは難しいが、普段から世界遺産のニュースや新たな概念が出た時に、自分ではどう考えるか書いてみるというのがよい。日記のように毎日のニュースで感じたことを一言ずつ書いてみるのも有効である。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。